

広がる交流の輪

肢体不自由児施設・旭川療育園（岡山市北区祇園）の子どもたちでつくるティーパーボールチーム「旭川療育園フェニックス」が結成20年目を迎えた。毎年、他県の肢体不自由児施設と対戦する大会を開き、参加チームは徐々に増加。交流の輪が広がっている。今年も11月3日に岡山ドーム（同北長瀬表町）であり、本番に備え、練習に熱が入っている。

11月の大会へ練習に熱



ティーパーボールは野球とほぼ同じルールだが、投手が打者に投球する代わりに、本塁上に設置した棒状の「テリー」に載せたボールを打者が打つ。ボールは軟らかく、1チーム原則10人でプレーし、守備では網を使って捕球する。体が不自由でも楽しめ、全国の障害児施設などに普及しているという。

旭川療育園は慰問に

訪れたプロ野球・中日のことを悔やみ「みん監督（当時）の星野仙一さんの勧めで1996年4月、チームを結成。どんな逆境にも立ち向かう」との思いを込めてチーム名をフェニックス（不死鳥）とした。翌5月には以前から交流のあった「かがわ総合リハビリテーション（高松市）」と交流試合を開始。2011年以降、広島、愛媛、島根、佐賀県の施設が順次加わり、昨年からは6チームで大会を楽しむようになった。

旭川療育園フェニックスは現在、同園に入所する小学5年～18歳の10人が加入しており、施設1階のフロアなどで週3回程度、打撃や守備の練習に汗を流している。

堀野宏樹副園長は「ティーパーボールを通じて競争心や挑戦し続ける気持ちを養い、社会に出た時の力にしてほしい」と話す。

（福本尚純）

打撃練習をする旭川療育園フェニックスのメンバー

メンバーの杉山篤哉君（11）は、昨年の交流試合で準優勝に終わった。